

別添

愛・地球博開催15周年事業について

一般財団法人地球産業文化研究所



趣旨



●愛・地球博のレガシーを多くの人々と共有する

2005年に開催された愛知万博(愛・地球博)が掲げたテーマ(自然の叡智)と事業コンセプト(地球大交流)が、15年後の今日、どのようなレガシーとムーブメントを構築して来ているのかを、多くの地球市民が「知る・見る・体験できる」特別展として企画推進し、上海のEXPOミュージアム及び地元愛知で開催する。

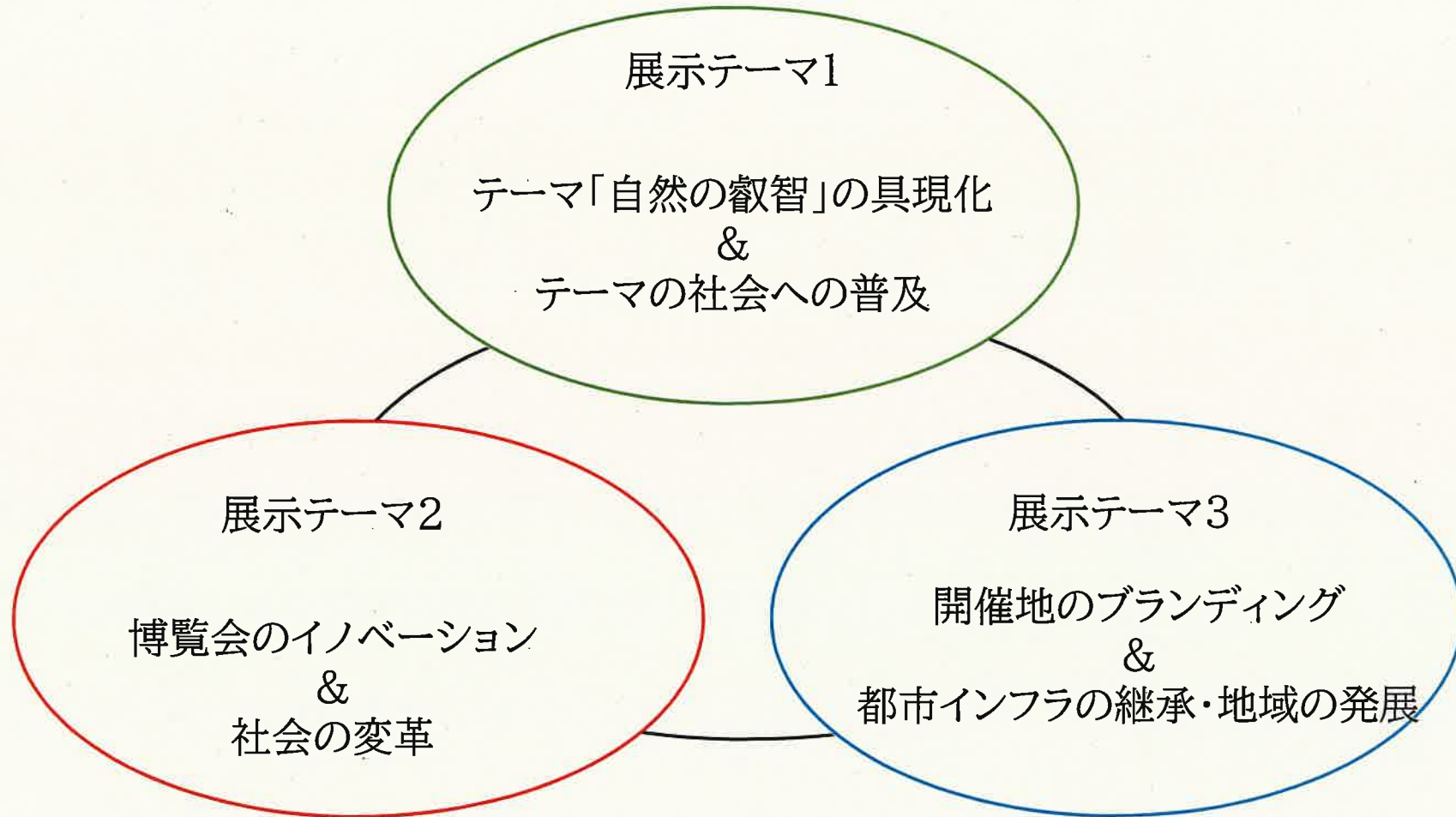
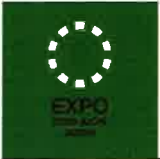
●愛・地球博の成果を開催当時の再現と将来への発展継承を官民連携で提示

愛・地球博の成果を、開催当時の出展・参加体験と、今日までの継承、将来に向けた発展の方向をリアルに参加体験できるしかけで表現する。今日と将来に向けて発展している技術やムーブメントの展示・体験プログラムについては、民間企業や各種団体の積極的な協力で実現する。

●3つの視点による特別展を国内外で開催

愛・地球博の成果を、「テーマ【自然の叡智】の具現化と社会への普及」、「愛・地球博が生み出したイノベーション」、「開催地のブランディングと発展」という3つの視点で表現し、愛・地球博の広範にわたる成果と、万博開催の意義を多様な視点で訴求する。

開催場所は、開催地である愛知県と、World EXPO Museum(上海)で開催する。



EXPOミュージアムでの開催

愛知での開催



●展示テーマ1 テーマ「自然の叡智」の具現化&テーマの社会への普及

◆新エネルギー

- ・循環型エネルギーシステム
バイオマスと廃材利用から水素を発生し
燃料電池による発電・太陽光とのハイブリッド
- ・各パビリオンでの取り組み
燃料電池・太陽光発電・風力発電
- ・会場間輸送に燃料電池バスの運行



◆自然エネルギーの活用が大幅に拡大

- ◆バイオマス発電の普及
- ◆家庭用燃料電池が急速に普及

・3,000台(2018)→80万台(2030)

◆環境問題解決に向けた社会システム

- ・ごみの分別収集
博覧会史上例を見ない17種類の分別
- ・生分解性プラスチックの活用
食器2000万個以上、商品や施設にも活用
- ・EXPOエコマネー
環境活動を経済価値に変換するシステム



◆日本のごみの量は確実に減少

- ◆バイオプラスチックの普及によりCo2削減量が増加
- ◆最先端技術を組合せた地域通貨が普及



●展示テーマ1 テーマ「自然の叡智」の具現化&テーマの社会への普及

◆環境共生を具現化する都市づくり

- ・バイオラング
世界最大規模の垂直緑化壁
- ・グローバル・ループ
地面への影響を最小限としつつ、高低差を
処理する画期的な動線システム
- ・間伐材の活用など木材利用万博
グローバルループ・日本館・愛知県館など



◆都市及び建築の緑化が大きく進展

- ◆動線の立体的な分離が博覧会会場づくりのモデルとなった
- ◆都市や建築への木材利用が拡大

◆国際学術プロジェクトが目玉展示

- ・冷凍マンモスプロジェクト
名古屋大学・慈恵医大・ロシア科学アカデ
ミーに加えて、フランス、アメリカの研究者
も参加した国際学術プロジェクトを組成
単なる展示だけではなく、学術研究成果の
発表、国際シンポジウムの開催も行った



◆学術の国際協働の場としての博覧会のブランディング

- ◆研究成果の発表



●展示テーマ2 博覧会のイノベーション&社会の変革

◆博覧会史上初ICチップ入り入場券

- ・入場券にICタグ(ミューチップ)を導入
- RFIDタグを入場券に導入し、入退場管理から国際博覧会史上初の観覧予約システムに活用



◆RFID技術を活用したキャッシュレス社会が推進

- ◆電子タグで流通業界に革命

◆次世代映像技術の新体験

- ・すべての映像がデジタル化
- 全天球、超高精細、3D、MRなど高度な画像処理による新しい映像体験
- ・超高精細放送技術の実証実験
- NHKスーパーハイビジョンの実証実験



◆双方向かつリアルタイム映像生成が日常化

- ◆4K放送の開始、8K技術の進展

◆未来の生活・産業インフラ技術

- ・ロボットによるサービスと人間の拡張の提案
- 接客、ケア、警備、清掃にロボットを活用
- トヨタ館ではパーソナルビークル、二足歩行ロボットによる人間の拡張の提案
- ・自動走行の実証実験:IMTS無人隊列バス
- 長久手会場内の移動に3台の大型バスによる隊列無人走行を国内初の営業運行



◆ロボット技術による産業基盤の高度化

- ◆自動走行の普及:乗用車分野+物流分野
- ◆スマートシティ



●展示テーマ3 開催地のブランディング&都市インフラの継承・地域の発展

◆森と里山を生かした会場

- ・グローバルコモンと多様なゾーン
緑溢れる自然地形を生かして、様々な出展ゾーンを有機的なデザインの下で設置
- ・森林体験ゾーン
豊かな里山環境を生かして多様な体験プログラムを展開するとともに「サツキとメイの家」をリアルに再現



- ◆愛・地球博記念公園:愛・地球博施設の継承
愛・地球博の跡地は、グローバルループの一部や迎賓館などを継承し、記念公園として再整備した
- ◆地球市民交流センター:多様な参加主体の活動の場
中核施設となる地球市民交流センターでは、様々な主体による交流とプログラムが継承
- ◆人気コンテンツの継承発展
2022年にはスタジオジブリの世界観を表現したテーマパークも開業予定

◆博覧会を契機としたインフラ整備

愛・地球博の開催を契機として様々なインフラが整備され、万博後の都市づくり発展の基礎を作り上げた
中部国際空港/東海環状道路/リニモ等



◆開催地の都市づくりの発展

- ・日本初となる磁気浮上式リニアモーターカーの営業運行
- ・中部国際空港開港による世界とのネットワークの拡大
- ・道路網発達による企業立地の促進と雇用の増加
- ・昇龍道プロジェクトによる観光客の増大など

◆地球大交流の場としての愛知・中部

21世紀初の国際博覧会として、121か国、4国際機関が参加、加えて博覧会史上初NGO/NPOが参加主体として出展。
一市町村一国フレンドシップ事業で海外との交流が促進

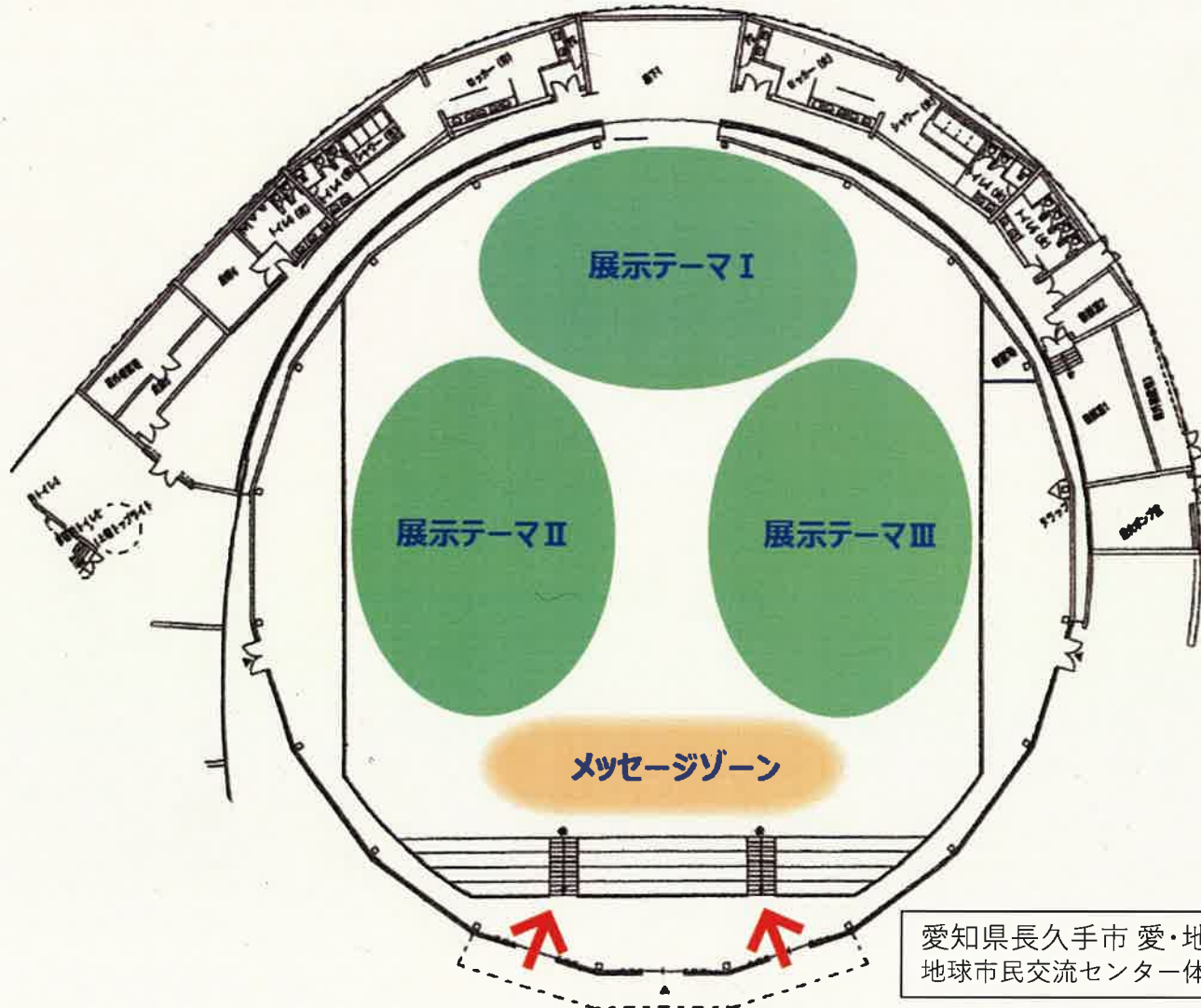


◆愛知・中部の「地球交流圏」構想の促進

2010年、地球環境博のレガシーの一環として「COP10」を開催、
2014年、ユネスコ「ESD世界会議」を開催
2019年、中部空港隣接のMICE施設「アイチSKYEXPO」完成
2025年、技能五輪誘致活動の展開
2026年、アジア競技大会の開催決定



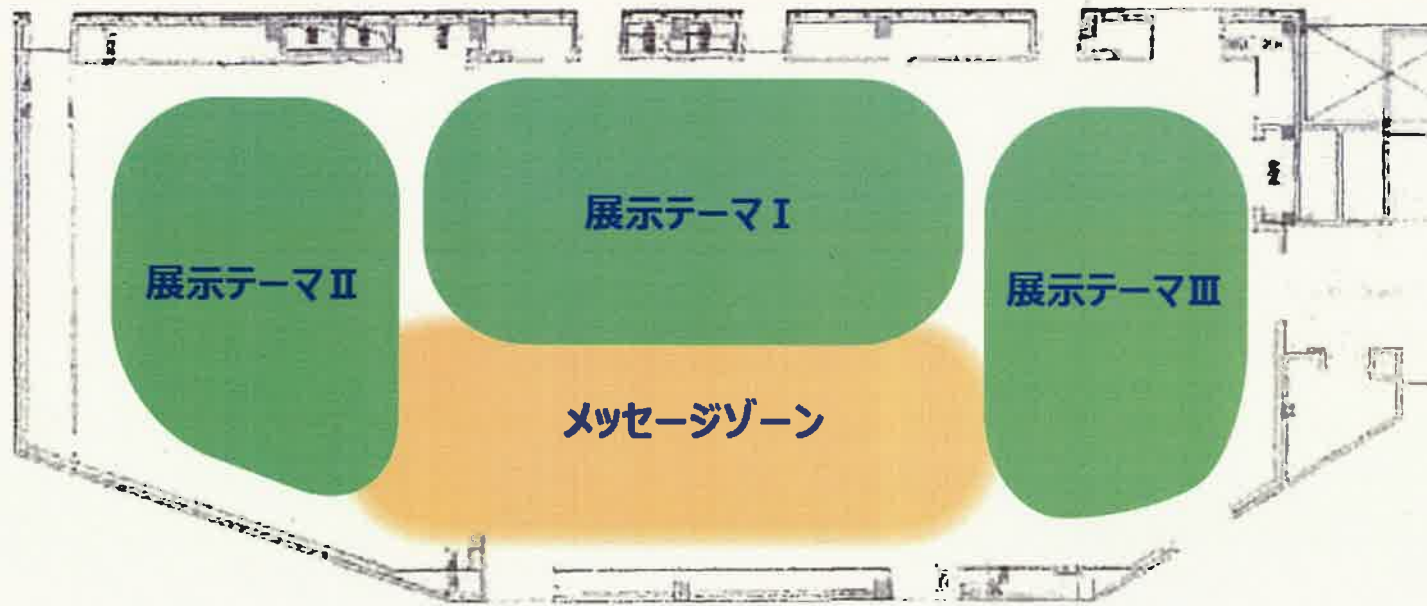
会場ゾーニングイメージ(愛知会場)



愛知県長久手市 愛・地球博記念公園
地球市民交流センター体育館 展示スペース 1500㎡



会場ゾーニングイメージ(上海万博博物館会場)



中国上海市 World Expo Museum
第2・3 展示ホール 1270㎡